



タイトル「**2016年度**」、フォルダ「**2016年度 - 全学教育機構 - 基本教養科目 - 前学期**」  
シラバスの詳細は以下となります。

[医学部のシラバスは こちらから。](#)  
[医学系研究科のシラバスは こちらから。](#)

開講年度	2016	開講時期	前期
コースナンバー	C11-89.03		
科目コード	G1322004		
科目名	コミュニケーション論		
担当教員(所属)	早瀬 博範(文化教育学部)		
単位数	2		
曜日・校時	水 2		
学士力番号	1-(1)		
曜/限追記	ネット授業 (インターネット配信による授業)		
講義形式	ネットを利用したオムニバス講義。		
講義概要	<p>本科目は、総合的なコミュニケーション能力の向上につながる基本的な知識や技能を修得するための講義を行う。基礎理論、言語、非言語コミュニケーション、対人的コミュニケーションから異文化コミュニケーションまでを包括的に取り扱う。</p> <p>講義は複数名の教員で担当するオムニバス形式の授業である。</p>		
開講意図	現代社会において最も重要なスキルであるコミュニケーションについて学問的な知識を身につけるために、さまざまな観点からコミュニケーションの概念について理解する。		
到達目標	<p>1. コミュニケーションに関する基本的な知識を得る。 2. コミュニケーションに関するレポートが作成できる。</p> <p>【学士力番号1(1)(2)(3);2(1)(3); 3(1)(2)(3)】</p>		
聴講指定	インターネットが使用できる環境であること。最大170名まで。		
履修上の注意	<p>○インターネット配信による授業なので、受講できる環境であることが必要。学内・学外を問わず24時間受講可能。開講時に必ずオンラインガイダンスを受講してから受講を開始すること。</p> <p>○授業計画に従って、それぞれの講義を予定された期間内に受講し、課題となっている小テストやレポートを、オンラインで提出する。</p> <p>○講義日程については、ネット授業の科目の掲示板を参照。</p>		
	回	内容	授業以外の学習
	1	イントロダクション	コミュニケーション全般に関するミニレポート作成
	2	対人的コミュニケーション1 (1) (早瀬博範)	小テスト・レポート作成、講義で使われた専門用語の確認と整理。
	3	対人的コミュニケーション1 (2) (早瀬博範)	小テスト・レポート作成、講義で使われた専門用語の確認と整理。
		対人的コミュニケーション2 (早瀬博)	小テスト・レポート作成、講義で使

授業計画	4	範)	れた専門用語の確認と整理。
	5	コミュニケーションの基本1 (角和博)	小テスト・レポート作成、講義で使われた専門用語の確認と整理。
	6	コミュニケーションの基本2 (角和博)	小テスト・レポート作成、講義で使われた専門用語の確認と整理。
	7	言語コミュニケーション (田中彰一)	小テスト・レポート作成、講義で使われた専門用語の確認と整理。
	8	コミュニティ・コミュニケーション (早瀬博範)	小テスト・レポート作成、講義で使われた専門用語の確認と整理。
	9	手と手を繋ぐ異文化コミュニケーション (早瀬博範)	小テスト・レポート作成、講義で使われた専門用語の確認と整理。
	10	異文化間コミュニケーション2 (早瀬博範)	小テスト・レポート作成、講義で使われた専門用語の確認と整理。
	11	異文化間コミュニケーション3 (Z.ミツチエル)	小テスト・レポート作成、講義で使われた専門用語の確認と整理。
	12	異文化間コミュニケーション4 (R.ウィリアムソン)	小テスト・レポート作成、講義で使われた専門用語の確認と整理。
	13	高度情報コミュニケーション (角和博)	小テスト・レポート作成、講義で使われた専門用語の確認と整理。
	14	インターネット・コミュニケーション (岡崎泰久)	小テスト・レポート作成、講義で使われた専門用語の確認と整理。
	15	ビジュアル・コミュニケーション (中村隆敏)	小テスト・レポート作成、講義で使われた専門用語の確認と整理。
成績評価の方法と基準	<p>以下の2つの観点から総合的に評価する。</p> <p>(1) 受講状況 (受講期間厳守) と各講義の課題 (70%) : 到達目標の(1)(2)  各講義の課題を期限内に提出のこと。未受講のものが全講義の1/3を越えた時点で放棄とみなす。  また、課題の未提出・未解答のものが全講義の1/3を越えた時点で放棄とみなす。</p> <p>(2) 定期試験 (30%) : 到達目標の(1)  各講義で課された小テストとレポートからの出題及び、コミュニケーションに関する記述式の問題  が試験問題となる。  ネットではなく定期試験期間中にペーパーテストとして実施される。</p>		
開示する試験問題等	各講義の確認テストは、すべて講義終了後にネット上にアップする。		
開示方法	ネットにより随時対応する。		
教科書	資料名		版
	著者名	発行所名・発行者名	出版年
	備考 (巻冊 : 上下等)		ISBN
	各講義の中で講師が紹介する。		
参考図書	資料名		版
	著者名	発行所名・発行者名	出版年
	備考 (巻冊 : 上下等)		ISBN
	<a href="#">異文化間コミュニケーション入門 : 国際人養成のために</a>		

	<table border="1"> <tr> <td>L.A.サモバー, R.E.ポーター, N.C.ジェイン著; 西田司 [ほか] 訳</td> <td>聖文社</td> <td>1983</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	L.A.サモバー, R.E.ポーター, N.C.ジェイン著; 西田司 [ほか] 訳	聖文社	1983			
L.A.サモバー, R.E.ポーター, N.C.ジェイン著; 西田司 [ほか] 訳	聖文社	1983					
オフィスアワー	科目の談話室またはネット授業受講者専用のメールアドレスを利用して、質問、相談を受ける。						
その他	<p>■ &lt;自主学習のために&gt; 各講義では、講義のテーマに関する参考文献が出されているので、それを参考に復習をすること。また、より講義を理解するためには、末田編「コミュニケーション学」(松柏社)などによって、コミュニケーションについても基礎的な知識を養っておくことを勧める。</p> <p>■ ネット授業: 自宅にパソコンとインターネットがあれば、自宅からでも受講可能。無い場合は総合情報基盤センターでも聴講可能。(講義のない演習室を利用して下さい。) ネット授業の履修方法についてはネット授業ホームページ(<a href="http://netwalkers.pd.saga-u.ac.jp/">http://netwalkers.pd.saga-u.ac.jp/</a>)を参照。</p> <p>■ 学内各施設を利用する場合は、ヘッドホーンを持参すること。</p> <p>■ 理工学部の技術者教育(JABEE)プログラムでは、「人類のさまざまな文化や社会に関する知識を基に、多面的に物事を考える」能力を養成するために、下記の学習・教育到達目標を掲げています。第1～4分野の主題科目(文化と芸術, 思想と歴史, 現代社会の構造, 人間環境と健康)の修得により、下記の学習・教育到達目標が達成されます。 (知能情報システム学科) 学習・教育到達目標(A) (機能物質化学科機能材料化学コース) 学習・教育到達目標 (B-1) (機械システム工学科) 学習・教育到達目標(1-1) (電気電子工学科) 学習・教育到達目標(A1)</p>						

Copyright (c) 2015 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2016年度**」、フォルダ「**2016年度 - 全学教育機構 - 基本教養科目 - 前学期**」  
シラバスの詳細は以下となります。

[医学部のシラバスは こちらから。](#)  
[医学系研究科のシラバスは こちらから。](#)

開講年度	2016	開講時期	前期
コースナンバー	C11-70.01		
科目コード	G1321004		
科目名	芸術論		
担当教員(所属)	中村 隆敏(文化教育学部),田中 右紀(文化教育学部),穂屋下 茂(全学教育機構)		
単位数	2		
曜日・校時	時間外		
学士力番号	1-(1)		
曜/限追記	4月より配信 (教室が必要ないため、時間割上は時間外での登録)		
講義形式	ネット授業		
講義概要	現代有田を内外面から支える方々の、様々な角度から有田焼に対しての認識を伺い、有田焼の置かれている現状を水平軸、歴史的背景推移を垂直軸に展望し、有田焼を身近に感じその更なる発展の可能性を窺う。		
開講意図	有田焼の実状に近い理解を促し、産業としての有田焼の展望を見据える。		
到達目標	有田焼の歴史と現状を理解し、文章にまとめ、明確にすることができる。		
履修上の注意	本授業は、ネット授業である。授業をきちんと受講できる環境 (インターネットに繋がったPC) を整えることが受講の前提である。(自宅で受講できなくても総合情報基盤センター等の学内施設で受講はできるが、利用できる時間帯は決まっているため注意が必要である。)		
授業計画	回	内容	授業以外の学習
	1	ガイダンス	
	2	有田学概論	小テスト、講義内容の復習
	3	有田陶磁史	小テスト、講義内容の復習
	4	古陶磁鑑定法 (前編)	小テスト、講義内容の復習
	5	古陶磁鑑定法 (後編)	小テスト、講義内容の復習
	6	銘款からみた近代の有田焼	小テスト、講義内容の復習
	7	今右衛門窯	小テスト、講義内容の復習
	8	有田焼の製造工程	小テスト、講義内容の復習
	9	有田焼伝統技術伝	小テスト、講義内容の復習
	10	陶磁器デザインの現在	小テスト、講義内容の復習
	11	産業としての有田焼	小テスト、講義内容の復習
	12	未来のセラミックスと有田	小テスト、講義内容の復習
	13	現代にやきものを作るということ	小テスト、講義内容の復習

	14	田中右紀—私の仕事に見る発想の出発点とオリジナリティー	小テスト、講義内容の復習
	15	人と地域を繋ぐ、有田のことづくり	小テスト、講義内容の復習
成績評価の方法と基準	①各回講義の聴講後に小テストを課す。(オンラインで受験) ②期末レポートを課す。 最終成績は①を70%、②を30%として評価する。 5回以上の欠席がある場合は、単位は認定しない。 ※毎回の講義の聴講完了と小テストの受験をもって出席とする。		
開示する試験問題等	毎回の小レポート及び期末レポート		
開示方法	毎回の小テストはオンライン上で開示している。 期末レポートについては、希望者はeラーニングスタジオにて開示する。		
教科書	資料名		版
	著者名	発行所名・発行者名	出版年
	備考(巻冊:上下等)		ISBN
	<a href="#">アジアの海と伊万里</a>		
	大橋康二, 坂井隆著	新人物往来社	1994
	<a href="#">陶芸のための科学</a>		
	素木洋一著	建設総合資料社	1973
リンク	<a href="#">ネット授業</a>		
オフィスアワー	木4 (その他、科目の談話室を利用して、質問・相談を受ける。)		

# 生命のしくみ

科目名	生命のしくみ
ナンバリング	CE_C1_02
担当者	高橋 忠夫
開設学科 専攻・コース	健康栄養学科 社会福祉学科 スポーツ健康福祉学科 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 子ども学科 心理カウンセリング学科
分類	共通教育科目 教養教育科目
関連する 資格・免許	栄養士免許申請資格 管理栄養士国家試験受験資格

開講キャンパス	開講年次	開設期	単位数	必修・選択
神埼	1年	前期	2単位	選択必修(健康栄養学科・社会福祉学科・スポーツ健康福祉学科・子ども学科・心理カウンセリング学科) 選択(リハビリテーション学科 理学療法学専攻・リハビリテーション学科 作業療法学専攻)

授業の概要 及びねらい	地球上の生物は、どのようにして出現したのか。その可能性と、現存の生物のグループ分けについて理解させる。そのうえで、生物に固有で、しかも共通した代表的な特徴と、その「しくみ」を解説する。それらに基づいて、人間を含む生物と呼べるものとは、どのようなものが理解できるようにすることを目的とする。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地球最初の生物はどのように出現したのか？その可能性を説明できる</li> <li>2. 生物のグループ分けについて説明できる</li> <li>3. 真核生物と原核生物の違いを説明できる</li> <li>4. 動物細胞と植物細胞の構造について説明できる</li> <li>5. 筋肉の収縮運動について分子レベルで理解する</li> <li>6. 有性生殖と無性生殖：特に、細胞分裂について説明できる</li> <li>7. 細胞膜の構造と、細胞内への物質の取り込み機構を知る</li> <li>8. 外呼吸と内呼吸についてヒトを例として説明できる</li> <li>9. どのような特徴を持つものが生物と呼べるか理解する</li> </ol>
学習方法	パワーポイントを利用した講義を中心に行う。毎回、質問用紙を配布するので、質問事項を書いて提出する。
テキスト及び参考書籍	特に指定しない。毎回、授業内容に即したプリント等を配布する。参考書等は授業中に適宜紹介する。

【社会福祉学科】																					
	到達目標										合計										
	汎用的能力要素						専門的能力要素														
	態度・志向性			知識・理解			技能・表現			行動・経験・創造的思考力			割合								
1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)		2)	3)						
比率			10			70			20												100
評価基準・方法											評価割合										
定期試験	○		◎			○															80
小テスト等			○			○															5

宿題・授業外レポート									
授業態度		○	○						10
受講者の発表									
授業の参加度	○	○							5
その他									
合計									100

(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点 %評価割合)

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)		
第1週	事前学習(予習)	絶滅危惧種とは、どのようなものをいうのか調べておく。
	授業	現在の地球上には、どのくらいの生物種が存在するのか？絶滅危惧種と嫌われものの生物。
	事後学習(復習)	講義内容およびプリントに基づいて、要点をまとめる。
第2週	事前学習(予習)	生命の起源について、インターネットや参考書等で概略を見ておく。
	授業	地球最初の生物はどのようにして発生したのか？パスツールとミラーの実験。
	事後学習(復習)	講義内容およびプリントに基づいて、要点をまとめる。
第3週	事前学習(予習)	生物の分類法について、概略を調べる。
	授業	生物はどのようにグループ分けできるのか。生物2界説から5界説まで。
	事後学習(復習)	講義内容およびプリントに基づいて、要点をまとめる。
第4週	事前学習(予習)	真核生物および原核生物とは何かについて、概略を調べる。
	授業	真核生物と原核生物のちがいはなにか？
	事後学習(復習)	講義内容およびプリントに基づいて、要点をまとめる。
第5週	事前学習(予習)	アクチンとミオシンとは何か、概略を調べる。
	授業	生物に固有な特徴とは何か？運動について考える：筋収縮のしくみ。
	事後学習(復習)	講義内容およびプリントに基づいて、要点をまとめる。
第6週	事前学習(予習)	原形質流動（細胞質流動ともいう）とは何か、概略を調べる。
	授業	植物にも運動するしくみがあるのか？
	事後学習(復習)	講義内容およびプリントに基づいて、要点をまとめる。
第7週	事前学習(予習)	有性生殖とは何か、概略を調べる。
	授業	生殖： a) 有性生殖による子孫を残すしくみ。
	事後学習(復習)	講義内容およびプリントに基づいて、要点をまとめる。
第8週	事前学習(予習)	無性生殖とは何か、概略を調べる。
	授業	生殖： b) 無性生殖による子孫を残すしくみ ア) 単細胞生物における無性生殖
	事後学習(復習)	講義内容およびプリントに基づいて、要点をまとめる。
第9週	事前学習(予習)	マラリアとは、どのような病気か、概略を調べる。
	授業	増員増殖とマラリア。
	事後学習(復習)	講義内容およびプリントに基づいて、要点をまとめる。
第10週	事前学習(予習)	植物の接ぎ木や株分けについて、概略を調べる。
	授業	生殖： b) 無性生殖による子孫を残すしくみ イ) 多細胞生物における無性生殖
	事後学習(復習)	講義内容およびプリントに基づいて、要点をまとめる。
第11週	事前学習(予習)	ヒトの消化系について概略図を見ておく。
	授業	食べる：外界から物質を取り込むしくみ。
	事後学習(復習)	講義内容およびプリントに基づいて、要点をまとめる。
第12週	事前学習(予習)	細胞膜とは何か、概略を調べる。
	授業	細胞膜の構造と物質の取り込み。
	事後学習(復習)	講義内容およびプリントに基づいて、要点をまとめる。
第13週	事前学習(予習)	ヒトの肺の構造について概略図を見ておく。
	授業	呼吸： a) 外呼吸：肺におけるガス交換。
	事後学習(復習)	講義内容およびプリントに基づいて、要点をまとめる。
第14週	事前学習(予習)	ヒトの心臓の構造について概略図を見ておく。
	授業	呼吸： b) 内呼吸：各組織におけるエネルギー生産。
	事後学習(復習)	講義内容およびプリントに基づいて、要点をまとめる。
	事前学習(予習)	A T Pとは何か、概略を調べる。

第15週	授業	クエン酸回路とATP そして生物とは？
	事後学習(復習)	講義内容およびプリントに基づいて、要点をまとめる。
第16週	事前学習(予習)	これまでのまとめをすべて見直し、理解不足の点について再学習する。
	授業	まとめの試験。
	事後学習(復習)	
備考	<p>授業中は以下のルールを守ること</p> <p>①指示した内容について事前学習すること、また、毎回、学習した内容について事後整理すること。②遅刻をしない・私語をしない・携帯電話のスイッチを切る(メール・ゲーム・その他不可)。③帽子を脱ぐ。④その他、大人としてのマナーを守る。すなわち、他人の迷惑にならないことを第一に考えること。</p>	



# 現代社会と倫理

科目名	現代社会と倫理
ナンバリング	CE_B1_02
担当者	井本 浩之
開設学科 専攻・コース	健康栄養学科 社会福祉学科 スポーツ健康福祉学科 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 子ども学科 心理カウンセリング学科
分類	共通教育科目 教養教育科目
関連する 資格・免許	栄養士免許申請資格 管理栄養士国家試験受験資格

開講キャンパス	開講年次	開設期	単位数	必修・選択
神埼	1年	前期	2単位	選択必修(健康栄養学科・社会福祉学科・スポーツ健康福祉学科・子ども学科・心理カウンセリング学科) 必修(リハビリテーション学科 理学療法学専攻・リハビリテーション学科 作業療法学専攻)

授業の概要 及びねらい	科学技術の進歩は、伝統的な倫理観に対立する事象を多く生み出してきている。医療の分野における技術革新は脳死問題、生体臓器移植等々を生み出し、伝統的な生命観を超えた問題を提起している。環境問題についても課題は山積である。現代において倫理的問題を語ることの難しさを実感することが狙いである。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝統的な倫理説について説明できる。</li> <li>・ 科学技術の革新がもたら・た新しいタイプの倫理問題について説明することができる。</li> <li>・ 現代社会が抱えている倫理問題を説明することができる。</li> <li>・ 法や規則によって解決できない問題に取り組もうとする姿勢を身につける。</li> </ul>
学習方法	パワーポイントを用いたノート講義 適宜グループワーク後の討論
テキスト及び参考書籍	必要に応じて準備します。

【社会福祉学科】		到達目標																					合計					
		汎用的能力要素									専門的能力要素																	
		態度・志向性			知識・理解			技能・表現			行動・経験・創造的思考力			態度・志向性			知識・理解			技能・表現					行動・経験・創造的思考力			
		1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)						
比率		5	5	5	20	10	10	10					10	20		5										100		
評価基準・方法																							評価割合 %					
定期試験																												
小テスト等																												
宿題・授業外レポート																							60					
授業態度																							30					
受講者の発表																												
授業の参加度																							10					
その他																												

合計										100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点 %評価割合)										

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)		
第1週	事前学習(予習)	シラバスをよく読んでおくこと
	授業	オリエンテーション (授業の進め方)
	事後学習(復習)	授業を再現できるノート作成
第2週	事前学習(予習)	前回作成したノートに目を通しておくこと
	授業	意志決定ゲーム (クロスロード)
	事後学習(復習)	授業を再現できるノート作成
第3週	事前学習(予習)	前回作成したノートに目を通しておくこと
	授業	自由意志の不思議
	事後学習(復習)	授業を再現できるノート作成
第4週	事前学習(予習)	前回作成したノートに目を通しておくこと
	授業	意志決定ゲーム2 (取り戻せない選択肢)
	事後学習(復習)	授業を再現できるノート作成
第5週	事前学習(予習)	前回作成したノートに目を通しておくこと
	授業	自由意志の怖さ
	事後学習(復習)	授業を再現できるノート作成
第6週	事前学習(予習)	前回作成したノートに目を通しておくこと
	授業	自由と後悔
	事後学習(復習)	授業を再現できるノート作成
第7週	事前学習(予習)	前回作成したノートに目を通しておくこと
	授業	倫理学とは何か
	事後学習(復習)	授業を再現できるノート作成
第8週	事前学習(予習)	前回作成したノートに目を通しておくこと
	授業	西洋の倫理観1 (善と悪)
	事後学習(復習)	授業を再現できるノート作成
第9週	事前学習(予習)	前回作成したノートに目を通しておくこと
	授業	西洋の倫理観2 (効率と倫理)
	事後学習(復習)	授業を再現できるノート作成
第10週	事前学習(予習)	前回作成したノートに目を通しておくこと
	授業	西洋の倫理観3 (人権と効率)
	事後学習(復習)	授業を再現できるノート作成
第11週	事前学習(予習)	前回作成したノートに目を通しておくこと
	授業	西洋の倫理観4 (カントの倫理主義)
	事後学習(復習)	授業を再現できるノート作成
第12週	事前学習(予習)	前回作成したノートに目を通しておくこと
	授業	西洋の倫理観5 (解決のつかない問題)
	事後学習(復習)	授業を再現できるノート作成
第13週	事前学習(予習)	前回作成したノートに目を通しておくこと
	授業	さまざまな倫理問題
	事後学習(復習)	授業を再現できるノート作成
第14週	事前学習(予習)	前回作成したノートに目を通しておくこと
	授業	前期の復習とまとめ
	事後学習(復習)	凝縮ノートの作成
第15週	事前学習(予習)	試験対策
	授業	まとめ (試験を含む)
	事後学習(復習)	試験問題の振り返り
備考		

# 生命科学

科目名	生命科学
ナンバリング	GE_D1_01
担当者	平田 孝治
開設学科 専攻・コース	食物栄養学科 生活福祉学科 幼児保育学科
分類	一般教育科目 教養科目
関連する 資格・免許	

開講キャンパス	開講年次	開設期	単位数	必修・選択
佐賀	1年	前期	2単位	選択必修(食物栄養学科・幼児保育学科) 選択(生活福祉学科)

授業の概要 及びねらい	生命を支える生体成分の構造と機能ならびに遺伝子操作技術（遺伝子工学）について学習する。さらに、生命を維持する仕組みについて学習する。生命現象が何たるかを理解することで、人を中心とする自然科学への知識、そして自己の健康な生活管理や社会的規範への基本的態度や志向性を身につけさせる。
授業の 到達目標	1) 生命の定義を述べることができる。2) 化学進化の意義について説明できる。3) 細胞をつくる主要なたんぱく質の種類を列挙し、機能について説明できる。4) 細胞の構造を述べることができる。5) 細胞内の様々な小器官の特徴機能を説明できる。6) DNAの構造を説明することができる。7) 遺伝子の構造上の特徴を特徴を述べることができる。8) 遺伝子からたんぱく質にいたる遺伝情報発現の流れについて説明できる。9) 遺伝子操作の原理について説明できる。10) ホルモンとは何かを説明できる。11) ホルモンとシグナル伝達との関係について述べるることができる。12) 人体にとって免疫の働きの重要性を説明できる。13) 生命科学の学習を通して得られた生命観を説明することができる。
学習方法	講義。テキストおよび配布プリントに基づいて学習する。学習の状況に応じてテキスト以外の教材を活用する。
テキスト及び参考 書籍	テキスト：丸山敬著「生命とは何か」（東京教学社）。参考図書：東京大学生命科学教科書編集委員会編「生命科学」（羊土社）ほか、必要に応じて適宜紹介する。

【食物栄養学科】		到達目標															合計									
	評価基準・方法	汎用的能力要素									専門的能力要素															
		態度・志向性			知識・理解			技能・表現			行動・経験・創造的思考力			態度・志向性				知識・理解			技能・表現			行動・経験・創造的思考力		
		1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)	1)	2)	3)		1)	2)	3)	1)	2)	3)			
比率																							100			
定期試験		○		◎						○			○										70			
小テスト等																										
宿題・授業外レポート		○			○																		20			
授業態度																										
受講者の発表																										
授業の参加度		○								○			○										10			
その他																										
合計																							100			

(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点 %評価割合)

授業計画 (学習内容・キーワードのスケジュール)		
第1週	事前学習(予習)	テキスト第1章 (p1-9) を読んでおくこと。
	授業	生命活動の工程 (生物の定義)、生体の階層性 (生物の組織構築)、生物心理社会モデル
	事後学習(復習)	テキスト第1章 (p1-9)、プリントと板書等を合わせ、要点をまとめる。
第2週	事前学習(予習)	テキスト第4章 (p45-52) を読んでおくこと。
	授業	生命の起源、細胞のいろいろ (生物種、細胞の形態)
	事後学習(復習)	テキスト第4章 (p45-52)、プリントと板書等を合わせ、要点をまとめる。
第3週	事前学習(予習)	テキスト第4章 (p35-44) を読んでおくこと。
	授業	細胞の構造(細胞の種類、形態、小器官)
	事後学習(復習)	テキスト第4章 (p35-44)、プリントと板書等を合わせ、要点をまとめる。
第4週	事前学習(予習)	テキスト第4章 (p52-56) を読んでおくこと。
	授業	細胞の営み (細胞周期、分裂、分化)
	事後学習(復習)	テキスト第4章 (p52-56)、プリントと板書等を合わせ、要点をまとめる。
第5週	事前学習(予習)	テキスト第2章 (p9-18) を読んでおくこと。
	授業	生命をつくる物質: たんぱく質 (アミノ酸、光学異性体、ペプチド結合、一次~四次構造)
	事後学習(復習)	テキスト第2章 (p9-18)、プリントと板書等を合わせ、要点をまとめる。
第6週	事前学習(予習)	テキスト第3章 (p21-34) を読んでおくこと。
	授業	たんぱく質の機能 (酵素、活性化I <sup>-</sup> 、ATP、特異性、調節制御、構造たんぱく質)
	事後学習(復習)	テキスト第3章 (p21-34)、プリントと板書等を合わせ、要点をまとめる。
第7週	事前学習(予習)	テキスト第2章 (p18-19) を読んでおくこと。
	授業	糖質の構造と機能 (単糖、少糖、多糖)
	事後学習(復習)	テキスト第2章 (p18-19)、プリントと板書等を合わせ、要点をまとめる。
第8週	事前学習(予習)	テキスト第2章 (p18-19) を読んでおくこと。
	授業	脂質の構造と機能 (単純脂質、複合脂質、脂肪酸)
	事後学習(復習)	テキスト第2章 (p18-19)、プリントと板書等を合わせ、要点をまとめる。
第9週	事前学習(予習)	テキスト第4章 (p41-43) を読んでおくこと。
	授業	I <sup>-</sup> 代謝 (ATP、解糖系、TCA回路、電子伝達系、ベータ酸化)
	事後学習(復習)	テキスト第4章 (p41-43)、プリントや板書等を合わせ、要点をまとめる。
第10週	事前学習(予習)	テキスト第5章 (p57-68) を読んでおくこと。
	授業	遺伝子 (ゲノム、ジーン、DNA、RNA、セントラルドグマ、反保本的複製、転写、翻訳、コドン)
	事後学習(復習)	テキスト第5章 (p57-68)、プリントや板書等を合わせ、要点をまとめる。
第11週	事前学習(予習)	テキスト第6章 (p69-94) を読んでおくこと。
	授業	遺伝子工学 (遺伝子操作、制限酵素、リガーゼ、PCR、ベクター、遺伝子治療)
	事後学習(復習)	テキスト第6章 (p69-94)、プリントや板書等を合わせ、要点をまとめる。
第12週	事前学習(予習)	テキスト第7章 (p109-126) を読んでおくこと。
	授業	細胞とシグナル伝達(細胞の種類、神経伝達物質)
	事後学習(復習)	テキスト第7章 (p109-126)、プリントや板書等を合わせ、要点をまとめる。
第13週	事前学習(予習)	テキスト第8章 (p57-68) を読んでおくこと。
	授業	免疫 (生体防御機構、自然免疫、獲得免疫、抗原・抗体、細胞性免疫、体液性免疫、自己免疫疾患)
	事後学習(復習)	テキスト第8章 (p57-68)、プリントや板書等を合わせ、要点をまとめる。
第14週	事前学習(予習)	テキスト第8章までの内容と関連付け、第9章-第11章 (p127-164) を読んでおくこと。
	授業	生活習慣病・老化・神経と痴呆症・癌
	事後学習(復習)	テキスト第9-11章 (p127-164)、プリントと板書等を合わせ、項目立てとを関連付けまとめる
第15週	事前学習(予習)	これまでのまとめに合わせ、身近なニュースを収集し関連付ける。
	授業	まとめ (各到達目標のまとめ、生命倫理、生命観)
	事後学習(復習)	

備考

「他大学履修生等の学修比率について」 汎用的能力要素（共通）は履修生共通です。専門・応用的能力要素【態度・志向性】10%は、各自が所属する専門分野や将来像等における「自己の健康な生活管理や社会的規範への基本的態度や志向性」に対して同比率を充てます。詳しくは初回の授業で説明します。

各週の計画は予定であり、進度に応じて変更する場合があります。